

ミノルタ千代光会 会報 No.151

令和3年度
高野山物故者慰霊祭
10月7日に執り行われる
22名の方々を合祀

10月7日(木)の高野山は極めて気持ちのよい心洗われるような秋日和でした。観光客も少なく静かに落ち着いた霊山の清々しい風の中、2021年度の物故者慰霊祭は厳粛な中にも穏やかな空気に包まれて執り行われました。残念ながら今年もコロナ感染リスクを考慮し、物故者ご遺族・ミノルタ千代光会会員皆様の参列はお控え頂き、会社ご来賓と関西地区理事・監事のみの参列とさせて頂きました。

会社ご来賓として秘書室長御給佳織様、関西支社長代理鈴田透様、労働組合副中央執行委員長宮井三嘉様のご参加を頂き、当会からの参列者と合わせ15名の慰霊祭となりました。午前11時、別格本山南院に全員が揃い、今年新たに過去帳に書き加えられた22名の方々を想い起こしつつしめやかに法要。法要後ご住職から「コロナ禍はまだしばらく続く」と覚悟する必要があるかもしれないと述べ、更に豪雨、台風、地震、火山等、我々は大変危険の多い社会に生きています。皆様もどうぞ南院のご本尊である浪切不動尊のお心、不動心をもって日々お過ごし

(次のページに続く)

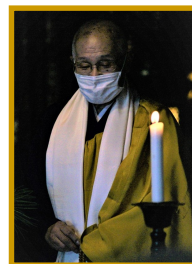


「宝泉院内、水琴窟(すいきんくつ)」 京都の宝泉院、樹齢700年の五葉松を眺めながら抹茶を頂き、脇の中庭に反射した風景を撮った一コマです。【撮影 陣川民生】

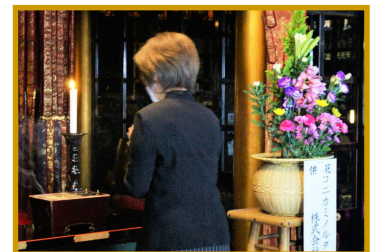
本年度物故者慰霊祭法要 南院にて

目次：No. 151

高野山物故者慰霊祭	1-3
事務局からお知らせ	3
理事会便り	3
会員便り	4
追悼の辞	4
事業所むかしいま	5-6
近況報告	7



内海住職より
ご法話



参列者全員 香を手向ける

大霊園に移動
12時より慰霊祭
ミノルタ慰霊塔にて



2021年度合祀の方々(敬称略)

- | | |
|--------|--------|
| 小林 正美 | 浅野 博徳 |
| 井村 俊宜 | 梅原 宣夫 |
| 松岡 隆志 | 水野 康次 |
| 馬淵 武 | 奥田 吉一 |
| 妙見 政和 | 芝辻 満雄 |
| 小野田 俊一 | 池田 賀一 |
| 田嶋 光雄 | 浦久保 光男 |
| 今西 宏 | 楠本 幸二 |
| 中村 博俊 | 梅田 明 |
| 北木 忠夫 | 舛田 誠久 |
| 山谷 昇 | 野村 潤一 |

○会員の皆さん 高野山へお詣りの節は南院へもお立寄り下さい。
千代光会からのお詣りとお伝えいただければ過去帳厨子も拝観できます。
※南院へは、高野山駅よりバスに乘車、浪切不動前で下車
※ミノルタ慰霊塔のある霊園へは、奥の院前で下車
高野山金剛峯寺の公式ウェブサイトは
<https://www.koyasan.or.jp/>



し下さい」とのご挨拶をいただき、その後大霊園へ移動しました。

「ここで余談をひとつ。南院の本堂正面に迫力ある龍の天井画があります。この天井画の下でポンと手を打つとジーンという残響が耳に響きます。そのためこの天井画は鳴龍(なきりゅう)と言われているそうです。機会があればぜひ一度ご体験を」



汗ばむほどの快晴に恵まれた大霊園での慰霊祭では、冒頭慰霊塔建立の主旨「先賢の霊(みたま)に捧ぐ」が三原理事によって朗読され、創業者田嶋一雄氏の先人への深い謝恩の思いと、会社の末永い発展を願う篤(アツ)い祈りが改めて胸に迫ってきました。

昨年は台風接近の影響で、慰霊塔への銘板安置が出来ませんでしたので、今年は2020年度31名、2021年度22名合計53名の銘板安置となりました。53名のお名前を読み上げ、読経が続くなか感謝と哀悼の思いを新たに参列者全員が香を手向け、その後、参列者皆様の手で銘板安置をしていただきました。

式後、記念写真の撮影、そして会食会場へ移動。席が改まりまず主催者を代表して大場勝ミ



大場会長

「コロナ禍にあつて誠に残念ではありましたが、今年も昨年同様ご遺族様やミノルタ千代光会会員方のご参列はお控え頂くことになりました。しかし会社のご支援を頂いて無事慰霊祭を執

り行うことが出来ました。慰霊塔への合祀者は累計586名になっております。」

続いてご来賓の御給佳織様からご挨拶。会社事業状況等のご紹介があり、「先輩方が築いて来られた光や色に関わる技術にデジタル技術を融合した力が現在も事業の下支えになっています。・・・本日の合祀者名簿の中に昔お世話になった方々のお名前を拝見し、懐かしく当時を思い起こしながら手を合わせておりました。」

また田嶋英雄総代からは献杯のご発声に先立



田嶋英雄総代

ち、光計測技術の中からオキシメーターが開発された当時の思い出や、非球面レンズ開発の思い出等のお話がありました。献杯後会食となりましたが、事務局から黙食・飲み物は手酌で強い要請があり、静かなながらも何かじれったい食事風景となりました。

今回の慰霊祭に当たつて事務局は感染予防に大変努力されました。南院入口では体温測定と手の消毒の確認、常時マスク着用、法要は三密を避けて、会食の席は大広間でテーブルに一人づつ、食事は黙食、飲物は手酌、歓談は食後マスクをしてから等事務局から再三要請が重ねられ、厳しい状況の中でも安全・安心に慰霊祭を遂行したいとの強い思いが感じられました。

食後の歓談も一段落したところで解散となり、奥の院参拝、土産物購入、寄り道プラン相談、即帰路へと



御給秘書室長



おめでとうございます

田=中部地区会員
 園=関東地区会員
 無印=関西地区会員

<古稀>

8月 橋爪 恒雄 藤中 初義
 9月 高田 和行
 10月 寺本 東吾 山下 景子園

<喜寿>

8月 西尾 重晴 宮崎 勝美
 9月 倉八 芳信 浅田 茂雄 恒松 時夫
 柴田 良隆園 笹原 節 山田 哲郎
 10月 松下 修三 古藤 昭夫 近藤 光輝園
 杉浦 利幸園 中元 騏三郎 木村 功園

<傘寿>

7月 服部 俊明園
 8月 松山 好広園 沢田 啓園 上妻 征男園
 佐原 正義 鈴丸 英世園
 9月 田村 収園 吉田 武男 小坂 武
 10月 前田 節信 馬場 道明 井川 寛園
 寺内 伸也 橋本 亘生園

<米寿>

8月 山中 克郎
 9月 西河 竹次 榊原 進園
 10月 丸 基二

<卒寿>

8月 喜多村 完
 9月 熊澤 毅園
 10月 守内 勝也 川口 省吾

それぞれ散会しました。コロナ禍による様々な困難の中にあつて参列は少人数でしたが、慰霊祭を大切に思う皆様の思いが込められた良い慰霊祭になったと感慨深いものがありました。事務局のご苦労と参列者各位のご協力により何事もなく終えることが出来たとの安堵感と来年は是非ともご遺族方の参列も可能になりますようにと祈りつつ高野山を後にした次第です。

慰霊祭に参加された理事・監事方に「高野山での一句」をお願いしました。全ての句が慰霊祭の情景や参列された方々の思いの一端を示す記録でもあります。全句から浮かび上がる慰霊祭の雰囲気をご鑑賞下さい。全句 俳句、季語なし句、川柳、自由律詩等自由にお願ひしました。

行く秋に偲ぶ過去帳高野の地
 紅葉葉覗く浪切不動尊にて物故者法要
 秋空へすくつと立ちぬ五輪塔
 高野の秋読経流れて浮かぶ笑顔
 高野山御霊に会いに年一度
 亡き友を重ねて想う高野の空
 物故者の御霊集いし神無月
 先達が大師と共に秋高野
 天高し銘板安置無事了る

(報告 理事 松山 創)

創 寛 和 裕 秀 淑 勝 治 勉
 文 司 一 子 男 男

理事会だより

7月理事会(WEB会議)

◇2021年度物故者慰霊祭開催について他

9月理事会(WEB会議)

◇中期計画策定に当たって
 ◇2021年度物故者慰霊祭開催について

10月理事会(WEB会議)

◇2021年度物故者慰霊祭報告
 ◇2021年度中期決算報告 他

お悔やみ申し上げます

奥田 吉一 2021年4月17日
 梅田 明 2021年7月12日
 舛田 誠久 2021年7月20日
 野村 潤一 2021年8月14日
 村瀬 蔵雄 2021年8月19日
 和田 幹司 2021年10月5日

新入会員のお知らせ
 (所属地区)

愛宕 和美 (関西)
 仲川 幾夫 (関西)
 松本 朗彦 (中部)
 A. K (関西)

【会員状況】

10月19日現在

関西地区 [5 0 9名]
 中部地区 [2 1 3名]
 関東地区 [6 6名]
 合計 [7 8 8名]

秋の行事は三地区とも中止となりました事、ご報告いたします。



事務局からお知らせ



関西地区会員の葛城衛さんからのお便り

「双翼の日の丸エンジニア」
ゼロ戦と飛燕の遺伝子は消えず

葛城さんと元川崎重工常務の百合草三佐雄さんお二人の子供のころからの人生を追いながら、「ミノルタα-7000」と「オートバイカワサキZ1」の開発を通じて、零戦設計者の堀越二郎さんと飛燕設計者の土井武夫さんの遺伝子を引き継ぎ、世界に羽ばたいた二人のエンジニアを描いたノンフィクション長編物語です。

著者は元産経新聞の記者 戸津井康之氏、取材をベースに本にまとめたものです。

大変だった。事後治療が大切だよ。私は失敗して腕が肩より上がらなくなり、長年親しんでいたバイオリン演奏が出来なくなり残念だった」と話され、私は浦久保さんの助言で後遺症もなく半年後に回復し感謝しています。

浦久保さんの退職後、仕事仲間と一緒に浦久保家を訪問しご馳走になりました。その時の冷酒が大変おいしかったので「どこのお酒ですか」と聞くと、「私の出身地・海南市の銘酒・黒牛」と教えて頂きました。後日、浦久保さんから自宅に「黒牛」の一升瓶が届き、驚きと感動した事を思い出しました。

(川口 寛)

楠本幸二さん

6月12日死去

大きな手術をされても尚お元気でミノルタ千代光会関西地区総会にも毎年お顔を出して居られたし、海外駐在員同窓会にも数年前まで会長を務めて居られました。

その楠本幸二さんが他界されるなど信じられません。六月十二日に関西医科大学付属病院特別室にて泰子奥様やお嬢様たちに見守られ老衰で静かに生を閉じられました。八八歳でした。

楠本幸二さんは旧ミノルタの海外事業の草分け的存在で欧州のカメラ

市場開拓の基礎を作られました。また香港を拠点にした東南アジア市場展開にもミノルタ香港会社の社長として、なくてはならない存在でした。

私が初めてシンガポールに出張した際に、経由する香港空港で後ろからポンと肩をたたかれ、振り向くと何と楠本幸二さんでした。「藤吉君ご苦労さん。僕の飛行機は一番早いので先に行って待っている。気を付けて」と申されて別便に乗り込まれました。

これが私の楠本幸二さんとの初めての出逢いでした。未知の空港での不安な乗り継ぎの時でしたからそのお声が暖かくて不安を一掃してくれました。一九七三年のことでした。この時の出逢いがその後の半世紀に及ぶお付き合いになるうとは。

後年私も十年に及ぶ欧州駐在を終えて一九八九年に帰国しプリンタ営業部に迎えられました。営業部長さんはあの楠本幸二さんでした。

不思議なご縁で新しい仕事のご指導を仰ぐこととなりたつぷりと楠本流交渉術を仕込まれました。光陰矢の如し。つい先年「藤吉君おめでとう。写真コンテスト入選者の名前の中に君の名前を見つけたよ」とお電話を頂戴したのが最後となりました。私が天国に召された時にあらで最初にご挨拶する方のお一人です。それまで安らかに眠りください。

合掌

(藤吉 修忠)

舛田誠久さん

7月20日死去

先日ミノルタ千代光会よりお電話を頂き、舛田さんが7月20日に亡くなられた事を知り、舛田宅にお電話し、娘さんにお悔やみを申し上げました。

娘さんのお話では今年1月に入院し治療に専念していましたが、入院先で永眠したとのことでした。

舛田誠久さんは1951年3月に千代田光学精工(株)本社工場に入社、部品加工課に配属、その後堺工場に転勤(統合)後、カメラ組立1課に転課、二眼レフカメラ組立作業に従事し、約30年カメラ組立一筋、勤められました。

真面目な仕事ぶりで先輩・後輩からも信頼され、職場では熱心に後輩の指導もされていました。

外見は少し気難しい感じのする方でしたが、話しかけると優しく色々教えて頂ける方でした。

趣味の社交ダンスはプロ級、スキーはアマ1級の腕前でした。

定年後は南海高野線北野田から兵庫県宝塚市内に移住され、余生を楽しまれていた事と思えます。ここに生前を偲び謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

(森久 信雄)



追悼の辞

今年、浦久保さんから年賀状が届かなかったので心配していましたが、訃報に接し驚きました。

浦久保光男さん

5月19日死去

浦久保さんは、長年研究・開発部でお仕事をされて来られました。私はその時代に活躍された仕事内容は存じておらず、浦久保さんが退職前に勤務していた職務開発室時代に1年間ご一緒しました。仕事に対して何事も真面目に取り組む姿勢がとても印象的でした。

私が50肩になり苦しんでいた時、浦久保さんが「私も昔、40肩になり